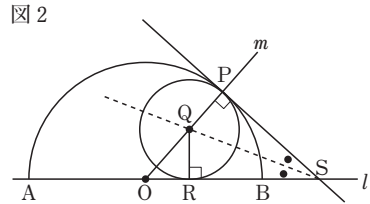
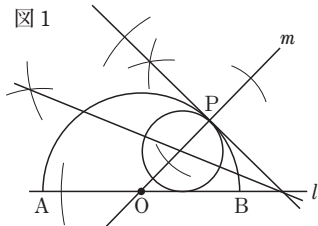


1. 作図例…図1

解説 求める円は図2の円Qである。このとき、円Qは点Pで \widehat{AB} と接することになるので、点Pにおける \widehat{AB} の



接線は円Qの接線ともなる。また、円Qは直線 l に接している(接点をRとする)ので、点Pを通る円Qの接線と直線 l の交点をSとすると、 $\triangle PQS \cong \triangle RQS$ より、 $\angle PSQ = \angle RSQ$ となることがわかる。したがって、まず、点Pを通り直線 m に垂直な直線を引き、次に、この直線と直線 l がつくる角の二等分線を引く。角の二等分線と直線 m の交点が求める円の中心となるので、この交点を中心として点Pを通る円をかけばよい。

2. (1) 36° (2) $\frac{1+\sqrt{5}}{2}$ (3) $2 : (7-3\sqrt{5})$

解説 (1) 図のように、正五角形ABCDEの5つの頂点を通る円Oを考え、中心Oと5つの頂点を結ぶと、円周角の定理

$$\text{より、} \angle ICD = \frac{1}{2} \angle EOD = \frac{1}{2} \times \left(\frac{1}{5} \times 360^\circ \right) = 36^\circ$$

(2) $\triangle ACD$ と $\triangle CID$ で、 $\widehat{CD} = \widehat{DE}$ より $\angle CAD = \angle ICD$ 、 $\angle ADC = \angle CDI$ だから、 $\triangle ACD \sim \triangle CID$ よって、 $AD : CD = CD : ID$

……(*) また、 $\triangle ACD$ は $AC=AD$ の二等辺三角形だから、 $\triangle CID$ も二等辺三角形であり、 $CI=CD=1$ さらに、 $\widehat{CD} = \widehat{EA}$ より $\angle CAD = \angle ECA$ だから、 $\triangle ACI$ も二等辺三角形であり、 $AI=CI=1$

したがって、 $AD=x$ とおくと、 $ID=AD-AI=x-1$ となり、(*)より、 $x:1=1:(x-1)$ が成り立つ。

$$\text{これを解くと、} x(x-1)=1, x^2-x=1, \left(x-\frac{1}{2}\right)^2=\frac{5}{4}, x-\frac{1}{2}=\pm\frac{\sqrt{5}}{2}, x=\frac{1\pm\sqrt{5}}{2} \quad x>0 \text{ より、} x=\frac{1+\sqrt{5}}{2}$$

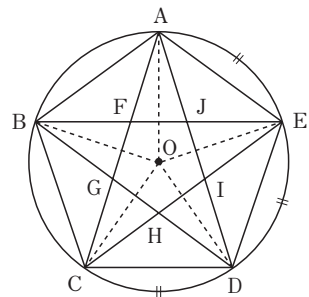
(3) 五角形FGHIJは正五角形となるから、五角形ABCDEと五角形FGHIJは相似である。よって、それらの面積比は相似比の2

$$\text{乗に等しくなる。} AD=\frac{1+\sqrt{5}}{2}, JA=ID=\frac{1+\sqrt{5}}{2}-1=\frac{\sqrt{5}-1}{2}$$

$$\text{だから、} IJ=AD-ID-JA=\frac{1+\sqrt{5}}{2}-\frac{\sqrt{5}-1}{2}-\frac{\sqrt{5}-1}{2} \times 2 = \frac{3-\sqrt{5}}{2} \quad \text{こ}$$

れより、五角形ABCDEと五角形FGHIJの相似比は、 $CD : IJ$

$$= 1 : \frac{3-\sqrt{5}}{2} = 2 : (3-\sqrt{5}) \text{ だから、面積比は、} 2^2 : (3-\sqrt{5})^2 = 2 : (7-3\sqrt{5})$$



覚えておきたい定理・公式

・相似比と面積比・体積比

2つの図形が相似で、相似比が

$m : n$ のとき、

面積比は、 $m^2 : n^2$

体積比は、 $m^3 : n^3$

3. $\frac{3\sqrt{2} + \sqrt{6}}{8} \text{ cm}^2$

解説 $AF = \frac{\sqrt{3}}{2} AB = \frac{\sqrt{3}}{2} \times 2 = \sqrt{3}$ だから、点 G から直線

AF に引いた垂線 GH の長さがわかれば、 $\triangle AFG$ の面積は求められる。図のように、点 G から辺 AE に垂線 GI を引き、直線 AF と

の交点を J とすると、 $\angle IAJ = 180^\circ - \frac{1}{2} \angle BAC - \angle CAD - \angle DAE$

$= 180^\circ - 30^\circ - 45^\circ - 60^\circ = 45^\circ$ だから、 $\triangle AIJ$ は $AI = IJ$ の直角二等

辺三角形 これより、 $\angle GJH = \angle IJA = 45^\circ$ であり、さらに $\triangle GHJ$

も $GH = HJ$ の直角二等辺三角形となる。ここで、 $\triangle AGI$ は 3 辺

の比が $1 : 2 : \sqrt{3}$ の直角三角形より、 $GI = \frac{1}{2} AG = \frac{1}{2} \times 1 = \frac{1}{2}$,

$AI = \sqrt{3} GI = \sqrt{3} \times \frac{1}{2} = \frac{\sqrt{3}}{2}$ よって、 $IJ = AI = \frac{\sqrt{3}}{2}$ より、 $GJ = GI + IJ = \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{1 + \sqrt{3}}{2}$ だから、 $GH =$

$\frac{1}{\sqrt{2}} GJ = \frac{1}{\sqrt{2}} \times \frac{1 + \sqrt{3}}{2} = \frac{\sqrt{2}(1 + \sqrt{3})}{4}$ したがって、 $\triangle AFG = \frac{1}{2} \times AF \times GH = \frac{1}{2} \times \sqrt{3} \times \frac{\sqrt{2}(1 + \sqrt{3})}{4} =$

$\frac{3\sqrt{2} + \sqrt{6}}{8} (\text{cm}^2)$

